

東毛工業用水道事務所

「工業用水道」という水道

もうひとつ探検した場所は、太田市の利根川べりにある東毛工業用水道事務所というところ。「ん？工業用水って、なあに？」「うん、なにしているところ？」「うん、みなはじめてのようす。そこで、まずはじめに工業用水なぜなに教室」。どうやら、事務所の人たちが、とくべつに授業をしてくれるらしいぞ。



やさしくていねいに教えてくれた長島さん

のは、工場などで使う水のこと。工場でモノをつくる時、機械や材料を洗ったり、ひやしたり、あたためたりするのに使うんだって。

そして、その工業用水を多くに東毛地区や伊勢崎地区の工場のためにつくっているのが、「東毛工業用水道事務所」というわけだね。

それから、工業用水というのは、上水道とちがって殺菌をしない、ねだんも安い、ということなども勉強したよ。

「でも、工業用水って、どうやってつくるの？」

浄水場の上を「空中散歩」

というわけで、長島さんのあんないで浄水場見学。

おおっと！いきなり、高いところへのぼっていくぞー。

長島さんについていくと、「うわっ！浄水場の上に、高い渡り廊下があるーっ！なるほど、ここを歩いていけば、

工業用水のできるようすが順番にわかる、というわけだね(図を見ながら読んでね)。

まず、「取水口」から利根川の水を取り入れ、「取水ポンプ」でくみ上げて、「沈砂池」へ送る。

沈砂池で、水の中の砂やゴミなどがしずむ。次に「混和池」でPAC(パッケ)というくすりを入れる。

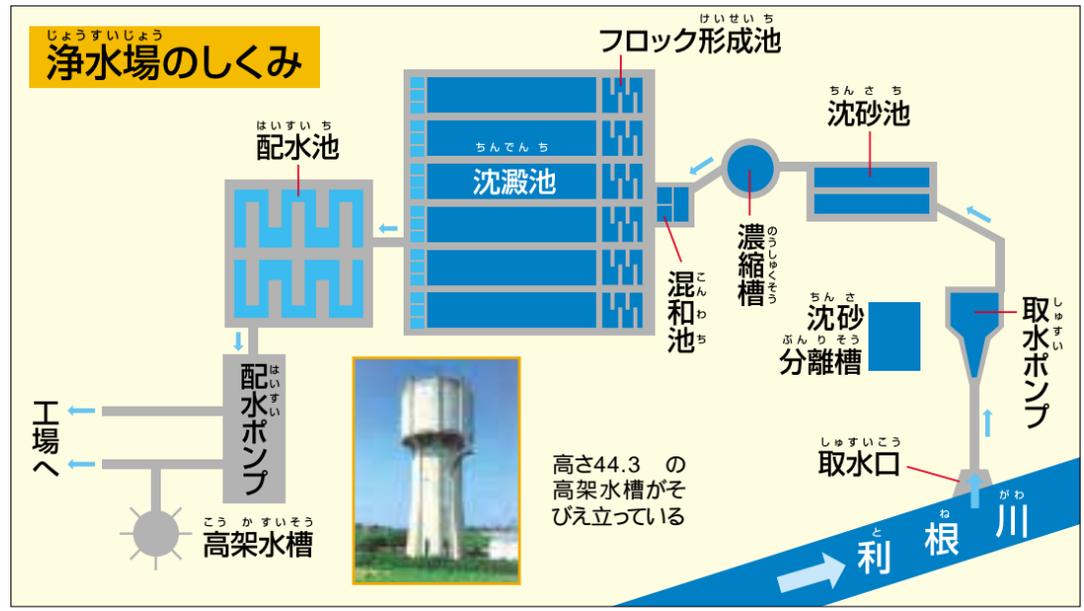
すると、「次の「フロック形成池」で、水の中の細かいゴミが集まってフロックというつぶつぶになってくるんだ。

さらに「薬品沈殿池」でフロックが下にしずみ、上のきれいな水をきれいにするしくみなど、まぢかに見ることができたね！



ちょっと高いところから浄水場を見学！水をきれいにするしくみなど、まぢかに見ることができたね！

浄水場のしくみ



ほんとはみぢかな工業用水

ということ、ちょっとかけ足になったけど、工業用水のできるしくみ、わかったかな？

工業用水というのは、24時間動いている工場も多いので、せうたいに止めることができない。

もちろん、この東毛工業用水道事務所でも同じ。

な水を「配水池」にためる。その水を工場に送る、というわけだ。



監視カメラもみんな楽しく体験したね！

2カ所も見学…カンゲキも2倍？

真弓さん「ふだん行けないところ、いままで知らないこと…いろんなことが体験できて勉強になった。浄水場を上から見るのが、ちょっとこわくておもたかった」

拓海くん「はじめてのことばかりだったけど、おもしくって勉強になり、楽しかった。大堰も工業用水も説明がとてもわかりやすかった」

優太くん「遠足みたいで、とてもおももしろかった。川をのぼってくるサケをほんとうに見ることができてカンゲキ！」

晴乃さん「はじめての見学で、ちょっとむずかしかった。でも、いろんな思い出ができた」

咲季さん「自然のサケをまぢかで見られたり、工業用水について勉強したり…いろんなことが体験できた。子ども記者になったおかげで、友だちもできた」

有希さん「はじめて子ども記者になつて、ちょっときんちようもしてたけど、いろんなことが勉強できて見聞がひろがった。この体験をたいせつにしたい」

みんな、ありがとう。利根川の水のこと、新しい発見ができたね。



このような工業用水のおかげで、工場でいろんなモノができ、それがお店にならんで、みんなもそれを買って使ったりすることができるといってわけだね。